

日本フィル「被災地に音楽を」 訪問コンサート レポート 第53号

被災地支援の訪問演奏は、2011年4月から始まり、2023年3月末で通算326回となりました。



原町第一中学校定期演奏会での共演

訪問地 福島県南相馬市

2022年10月7日 楽器クリニック

会場:原町第一中学校

10月8日 練習指導／合同ステージリハーサル 会場:ゆめはっと

10月9日 定期演奏会 会場:ゆめはっと

訪問メンバー

フルート 内山貴博

オーボエ 紺野菜実子

クラリネット 照沼夢輝

ファゴット 大内秀介

ホルン 佐藤俊輝

トロンボーン 岸良開城

パーカッション 大河原渉

ヴァイオリン 末廣紗弓

ヴィオラ 安達真理

ピアノ 富永愛子

福島県南相馬市は、日本フィルの活動拠点である杉並区の交流自治体であり、災害時相互援助協定を結んでいる地域です。日本フィルは2011年から南相馬市の訪問を継続していますが、近年では吹奏楽部が盛んな南相馬市の中でも、中心的な存在となっている原町第一中学校(以下、原一中)の吹奏楽部を訪問しています。

コロナ禍に入ってから、現地を訪問することが難しい状況が続いていましたが、2022年度は感染対策に十分配慮しながら、ついに現地を訪問して直接交流し、定期演奏会で共演することができました。

近年の原一中は、コロナ禍以降部員が減少している影響もあり、本来希望している楽器を変更して演奏している生徒もいるという状況を伺いました。プロの音を間近で聴いてもらうことで、彼らに何か残すことはできないだろうか、彼らへの刺激になるようなことはできないだろうか。そんな思いから、今回は顧問の先生の要望もあり、管楽器、打楽器に加えて普段めったに生で聴くことはないという弦楽器の楽員も訪問することになりました。クリニック、そして定期演奏会での共演や、日本フィルの管楽器、弦楽器奏者による本格的なクラシックの室内楽演奏と、盛りだくさんな内容の3日間となりました。

2022年 10月7日 楽器クリニック

今回は、木管五重奏の楽器(フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン)に加え、トロンボーン、パーカッション、弦楽器のヴァイオリン、ヴィオラの楽員、そしてピアニストが訪問し、指導を行いました。2日後には、原一中の定期演奏会を控えており、部員の練習も白熱しています。この日は楽器ごとの部屋に分かれ、基礎から今回演奏する曲の指導まで、濃密な指導を行いました。指導曲の中には、2022年の東北吹奏楽コンクールで金賞を受賞した曲も含まれています。更なる高みを目指したいという、彼らの意欲の高さと意気込みを感じました。

ある楽器のクラスでは、教室を飛び出し、廊下で身体全体を使って腹式呼吸の練習に取り組む様子も。限られた時間と場所を最大限に生かして丁寧な指導が行われました。



2022年 10月8日 練習指導・合同ステージリハーサル

2日目は、定期演奏会本番の会場である「南相馬市民文化会館ゆめはっと」でリハーサル。原一中単独ステージの練習を見学、アドバイスをした後、日本フィルと原一中の合同ステージのリハーサルを行いま

した。原一中の単独ステージの練習では、楽員がホールの客席で全体の音のバランスを聴いたり、部員の横に座って技術的・音楽的な指導をしたりと、彼らに寄り添ったアドバイスをを行いました。

合同ステージのリハーサルでは、楽員がそれぞれのパートに入り、隣で一緒に演奏しました。弦楽器の楽員も、弦楽器奏者ならではの視点からアドバイスを行っていきます。各パートへの指導はもちろん、全体に対するアドバイスも行われ、演奏がみるみるうちに変わっていききました。吹奏楽曲の中に弦楽器そしてピアノも入る、今回だけの特別な編成で、練習にも一段と熱がこもっていききました。



2022年 10月9日 原町第一中学校吹奏楽部コンサート

～日本フィルハーモニー交響楽団のアンサンブルを迎えて～

いよいよ定期演奏会本番の日。原一中のクラシックステージ、ポップスステージは、前日までの日本フィルとの交流の成果もあってか、生き生きと自信をもった演奏が披露されました。

演奏会の中では、日本フィルの室内楽ステージもお届けしました。今回選んだ曲は、

- ・フランス作曲「恋人たちの黄昏時」(木管五重奏とピアノ)
- ・ブルッフ作曲「8つの小品より」(クラリネット、ヴィオラ、ピアノ)
- ・ハルヴォルセン作曲「パッサカリア」(ヴァイオリンとヴィオラ)
- ・ファリャ作曲「スペイン舞曲」(ヴァイオリンとピアノ)

の4曲。普段なかなか聴くことのないというプロによる本格的なプログラムを、子どもたちに生で堪能してもらおうと、管楽器・弦楽器・ピアノを組み合わせた様々なプログラムを届けました。演奏の前には、楽員から日本フィルの被災地での活動や今回の訪問に関する思いが語られ、そして会場の子どもたちに向けては、「弦楽器の演奏を間近で見て聴くことは、管楽器を演奏するヒントにもなります」とメッセージが投げかけられました。プロによる息のあった演奏に、会場の子どもたちも食い入るように聴いていました。

原一中と日本フィルの合同ステージでは、アンコールも含め4曲を演奏。原一中サウンドに日本フィルのサウンドが合わさり、圧巻の演奏となりました。生き生きとした子どもたちとそれを客席から見守る地域の方。会場からは温かい拍手が送られ終演となりました。

自分たちの演奏する音楽に純粋に感動してくださるお客様を前にして、子どもたちは演奏することに心から喜びを感じているようでした。



【来場者アンケートより】

- ・原一中、日本フィル、そして南相馬に住む地域の人々がつながる合同ステージだったと思います。原一中の素敵なサウンドで、これからも地元をそして福島を盛り上げていただけたら嬉しいです。
- ・久しぶりに日本フィルの皆さんの演奏に触れることができ、とても幸せな時間でした。変わらぬご支援をありがとうございます。
- ・プロの音色に心癒されました。原一中の子どもたちにとっても良い音の勉強になっていると思います。

訪問して最初に行った楽器クリニックの際は、子どもたちも非常に緊張している様子でしたが、3日間、音楽を通して交流を進めていくことで、最後のささやかな交流会では名残惜しむ様子が見られ、日本フィルが帰りのバスに乗り込むと、子どもたちが外まで出て、姿が見えなくなるまでお見送りをしてくれました。日本フィルとの交流が、今後の音楽人生のよき糧となってくれることを、願ってやみません。



原一中と日本フィルで記念撮影



終演後の交流会



原一中の生徒さんが日本フィルをお見送り